

がんの教室

田中 伸哉

①6

ホルモン療法とは

ホルモンとは、ギリシヤ語が語源で「刺激するもの」を意味する。医学的には生理活性物質という。ホルモンはいろいろな臓器で作られるが、脳の命令を受けて規則的に分泌される。

脳の奥深くにある下垂体という臓器からは8種類ホルモンが分泌さ

れ、血液によって全身に運ばれ精巣や卵巣を刺激する。刺激を受けた精巣や卵巣からは、さらに性ホルモンが分泌される。男性はひげが生え筋骨が発達し、女性乳房が成

の命令が出るのを止めて精巣や卵巣から性ホルモンを分泌させなくする②偽のホルモンを投与し、本物のホルモンが働けなくするーだ。

ホルモン療法は、全て

のがんに効くわけではなく、主にホルモンの影響が大きい前立腺がんや乳がんがよく使われる。特に乳がんでは、ホルモン療法が効くか効かないか、さらにはどのホルモ

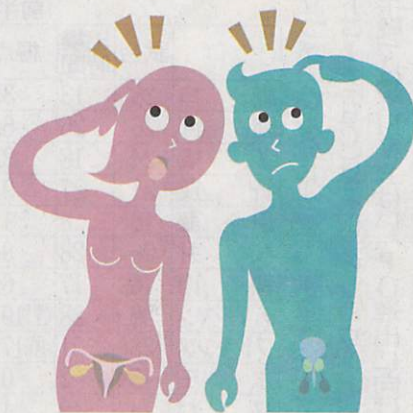
前立腺がんや乳がんにも有効

長する。

前立腺がんの細胞は、男性ホルモンを多く取り込んでがんが進行する。

ホルモンががん細胞を「刺激」して進行を手助けしてしまうのだ。

がんのホルモン療法は、ホルモンを効かなくすることで、がんの進行を止める。その方法は大きく二つあり、①脳から



ン療法が有効か、病理組織で特定のホルモンを調べることであらかじめ分かる。

先日60代の男性が前立腺がんと診断され、ホルモン療法が行われた。その後、治療が効いたかどうか確認するため、前立腺を切除した。病理医として前立腺の組織を観察したが、がん細胞は全て死滅していた。

ホルモン療法は、化学療法に比べて副作用の頻度も低い。従って、ホルモンの影響が大きい前立腺がんや乳がんの場合、ホルモン療法が十分有効なのである。

(北大医学部腫瘍病理学教授)